

環境保全型農業の推進



化学肥料の削減・脱炭素に向けた取り組み

環境負荷軽減に向け、各地で有機肥料や堆肥などの活用を進め、化学肥料の使用量・使用回数の削減に努めています。これにより、水質・環境汚染の防止、脱炭素社会の実現に貢献しています。



高機能バイオ炭「宙炭」を散布する生産者(中央)

セロリ
高機能バイオ炭を試験導入
化学肥料削減と土壌改良を両立
三島函南地区

三島市のセロリ栽培で、化学肥料の使用量削減やカーボンクレジットの実現を目指し、令和5年8月から(株)トーイングが開発・販売する土壌改良資材の高機能バイオ炭「宙炭」を試験導入しています。

植物残さなどを炭化したバイオ炭に微生物を付加し有機質肥料と混ぜたもので、微生物の培養技術を活用して複数の菌類を同時にバランスよく混合培養するのが特徴です。

比較的施肥量が必要なセロリ栽培で、同資材導入により施肥量を3年間で3割削減を目指します。

セロリ
高機能バイオ炭を試験導入
化学肥料削減と土壌改良を両立
三島函南地区

水稻栽培で使用している被覆肥料「二発肥料」はプラスチック資材で被覆され、徐々に肥料成分が溶け出すことから必要量を一回で施用できる労力軽減効果があります。その一方で、被覆殻が海洋に流れるなど環境への影響が懸念されています。

そこで令和6年度から沼津市の「きぬむすめ」栽培で、プラスチック不使用のノンコート肥料を導入。食味値などで良好な結果が得られ、本

**プラスチック不使用の
ノンコート肥料を導入・検証**
なんすん地区

水稻
**減農薬・減化学肥料の
エコ栽培米**
御殿場地区

御殿場市・小山町の水稻栽培で、化学合成農薬・化学肥料の使用量を削減した栽培に取り組んでいます。

同地区で栽培する「こてんばこしひかり」の最上級米「このはな恵み」は、土づくりで米由来の有機質資材や米ぬか入り肥料を使用し、循環型農業を実践。県が定める生産基準比で化学合成農薬、化学肥料ともに5割減で栽培されるエコ米です。

水稻
**減農薬・減化学肥料の
エコ栽培米**
御殿場地区



収穫した米の品質を確認する担当者ら

年度は栽培面積を広げながら引き続き適性を検証しています。



生産者(右)と栽培について情報共有する職員

特集 ふじ伊豆のSDGsの取り組み

持続可能な農業と豊かな暮らしの実現へ

2025年は、国連が定めた「国際協同組合年」です。国連は、協同組合の取り組みがSDGs(持続可能な開発目標)の実現に大きく貢献していると高く評価し、この機会に多くの人に知ってもらい、協同組合を振興していくことを目指しています。

互いに助け合う「相互扶助」の精神に基づくJAの事業・活動は、SDGsの目指す「誰一人取り残さない」社会に重なっています。

今回の特集は、当JAが行うSDGsの活動の一部を紹介します。



SDGsとJA

SDGsは、すべての人々にとってよりよい未来を築くための世界共通の目標です。貧困や健康、福祉、教育、環境、気候変動など、2030年までに達成すべき17の目標を定めています。

JAの食料生産・消費に向けた国消国産・地産地消の推進、食農教育、組合員・地域の皆さまとの助け合いなどの活動は、SDGsの目標達成に貢献しています。



国際協同組合年
協同組合はよりよい世界を築きます



©よい食プロジェクト

JAの目指す姿

JAは、協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かな暮らしと活力ある地域社会の実現を目指しています。

昨年10月の第30回JA全国大会では目指す姿として「持続可能な農業の実現」「豊かな暮らしやすい地域共生社会の実現」「協同組合としての役割発

揮」への取り組みを決めました。食料安全保障の確保に向けて、安全・安心な国産農畜産物を環境に配慮しつつ、安定的に供給できる持続可能な地域農業の確立など、JAの取り組みの一つが、国連が評価・期待するSDGsへの貢献につながっています。



社会福祉協議会へ地元米を寄贈



子ども食堂で子どもたちに弁当を提供



規格外などのニューサマーオレンジを活用したクラフトビール

その他のSDGsの取り組み(一例)

取り組み項目	内 容
環境保全型農業・労働力支援 	■農業用廃棄プラスチックを回収し、燃料として再利用 ■センチピードグラスを用いて畦畔の雑草を抑制 ■静岡県「みどり認定」の減化学農薬・減化学肥料栽培 ■茶かす・コーヒー豆かすを再利用した堆肥を活用 ■新規就農支援 ■あぐりキュービッド(無料職業紹介所)による労働力確保
フードロス削減 	■規格外野菜をJAが買い取り冷凍し加工品の原料や冷凍野菜として販売することで廃棄量を削減
国消国産・地産地消 食農教育活動 	■地場農産物を使用した親子食農教育セミナーを開催 ■学校給食へ特産品を提供 ■地元園児や児童を対象に特産物の収穫など農業体験 ■茶の入れ方や特産品について学校へ出前授業を実施 ■ジビエを活用した料理教室を開催
農産物などの寄贈 ボランティア活動 	■社会福祉協議会や被災地などに農産物寄贈、義援金の寄付 ■女性部ボランティアグループが福祉施設で清掃活動や地元の病院で奉仕活動



廃ビニールを提供し廃プラ燃料に活用



減化学合成農薬・減化学肥料栽培のレモン



食農体験で地元小学生が田植え



買い取りの冷凍イチゴ



伊豆の国ミニトマトを活用したクラフトビール



子ども食堂の手作り弁当に地場農産物を活用



回収箱を設置し出荷者に協力を呼びかけ

フードロス削減の取り組み



不ぞろい野菜や規格外作物などを有効活用

目標12「つくる責任 つかう責任」では、2030年までに世界全体の一人当たりの食料廃棄の半減を目指しています。当JAでは市場出荷規格外となった農産物や余剰作物、摘果した果実などを有効活用しフードロスに努めています。生産・廃棄の過程で排出されるCO₂の削減にもつながり、目標13「気候変動に具体的な対策を」の目標達成にも貢献しています。



「地域の役に立てたうれしい」と専用箱に続々と集まる野菜



提供された野菜を弁当に調理する女性部員

富士宮地区
 青壮年部富士宮地区本部とJAは、令和6年度から「う宮」な「出荷会員の規格外品の野菜を富士宮市内の小中学校に提供する「フードサイクルコミュニティ事業」を行っています。
 これまでに市内の3校に、調理実習用としてダイコンやジャガイモなどの規格外野菜を提供。3月からは、市社会福祉協議会の生活困窮者支援事業にも寄贈している他、女性部が月2回子どもたち向けに行う弁当作りにも食材を提供しています。
 本年度からは出荷者がいつでも野菜を提供しやすいように「う宮」な「バックヤード」に専用箱を設置。当日売れ残った野菜なども引き取り時に提供を呼びかけ、支援の輪を広げています。

子ども食堂へ農産物の寄贈
 三島函南・伊豆の国・御殿場の3地区では、ファーマーズマーケット出荷者が提供した野菜を定期的に子ども食堂に寄贈して地域の子どもたちへの支援につなげています。
 富士地区では女性部有志が月に一度、子ども食堂「ひまわり」と「たんぽぽ」を開催。地域の子育て世代の支援と地場産農産物や家庭の手作りの味を伝えることを目的に、産直市や女性部・青年部からの食材の寄贈も活用しながら弁当を作り、子どもたちや一人暮らしの高齢者などに提供しています。

規格外品などを有効活用
各地区
 出荷規格外品や摘果した果実、搾汁後の柑橘の果実などを有効活用し、飲料や酒、シャーベットなどに商品化しています。イチゴでは、富士宮地区で冷凍完熟イチゴを生産組織からJAが買い取り、主に加工用として販売。規格にとられず完熟果もすべて収穫・加工できるため、過熟果の廃棄量が約2トン削減できました。ダイダイや甘夏では、摘果作業で廃棄していた未熟果実を漢方薬の生薬として活用しています。